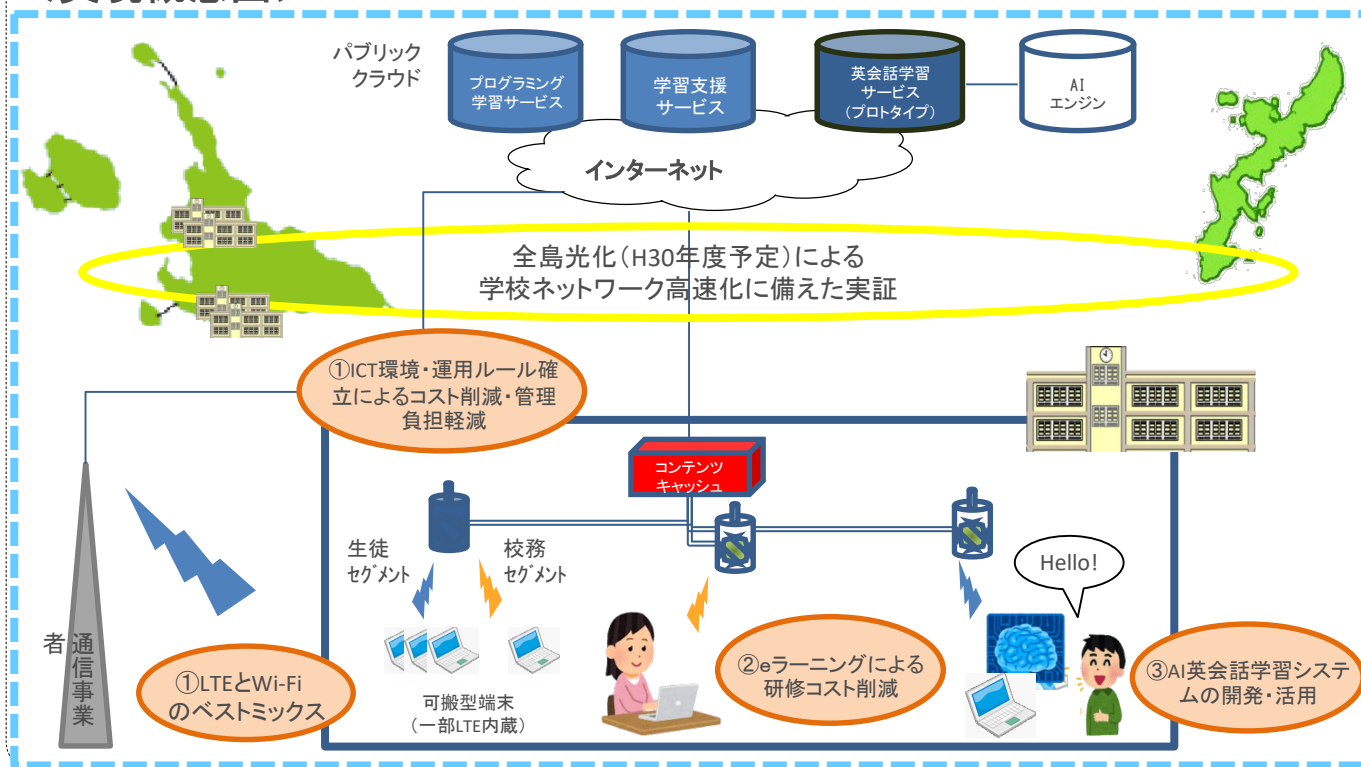


# スマートスクール・プラットフォーム実証事業 (「次世代学校ICT環境」の整備に向けた実証)

R2.3.31現在

実証地域	沖縄県宮古島市
実証モデル	ネットワーク円滑化 / コスト軽減 / 先端技術(EdTech)活用
実証校名	下地小学校、久松小学校、下地中学校、久松中学校
実証概要	離島の有限の資源の中でICT整備・活用を効果的・計画的に進めるため、①情報端末やネットワーク環境等のベストミックスの在り方、②eラーニングを活用した教職員研修による働き方の変化、③グローバル化に対応したAIによる英会話学習システムの学校教育での応用可能性、を検証する。

## <実現概念図>



### ネットワーク円滑化

- 対象校で単独LANを校務と生徒セグメントに論理分離(H29年度)
- 対象校で無線APを4台追加導入し、エリア拡張および接続性・通信状況の安定化(H29年度)
- 大容量教材の利便性向上のためコンテンツキャッシュ装置等の導入検討(H29-30年度)

### コスト軽減

- chromebook(41台)を用い導入費用削減、管理負担軽減(H29年度)
- LTE通信のWi-Fiオフロードによる通信料削減(H29-31年度)
- 教師向けICT研修をeラーニング化し研修費削減(H29-30年度)

### 先端技術(EdTech)活用

- AI英会話学習システムを開発して授業に活用。モック製作とユーザビリティ調査(H29年度)、基本機能実装(H30年度)、発話学習の実施(H31年度)